

特定小電力音声自動通報端末

TCB-U810

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られる場所に保管してください。本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用することはできません。



株式会社 山形ケンウッド

KENWOOD YAMAGATA CORPORATION

B62-1790-00

目次

安全上のご注意	3	呼び出し音を設定する	24
ご使用にあたっての注意	8	呼び出し音を設定する	24

準備編

梱包品を確認する	10	メッセージ回数を設定する	25
各部の名称と機能	11	メッセージ回数を解除する	25
本体	11	同じ通報を繰り返す	26
本体(内部)	12	送信間隔時間を設定する	26
本体(表示部)	13	送信間隔時間を解除する	28

基本編

準備する	14	キーロックを解除する	30
電源を入れる	14	用途に応じた使用例	30
チャンネルを設定する	14	設備（自動機など）においての使用例	30
グループ番号を設定する	15	生産ラインにおいての使用例	32
グループを解除する	15	外部センサーでの使用例	33
録音する	16		
録音マイクを接続する	16		
メッセージを録音する	16		
再生する	17		
録音したメッセージを確認する	17		
設置する	18		
壁や設備等に取り付ける	18		
外部機器に接続する	19		
自動通報のしくみ	20		
基本的な通報のしくみ	20		
		保守・参考	
		保守	34
		故障かな？と思ったら	34
		オールリセット	34
		Vox 振 解除について	34
		症状による確認項目	35
		オプションについて	38
		録音マイク（MS-STM54）について	38
		スピーカーマイクロホン（SMC-34）について	39

保守·参考

保守	34
故障かな？と思ったら	34
オールリセット	34
VOX 振 解除について	34
症状による確認項目	35
オプションについて	38
録音マイク (MS-STM54) について	38
スピーカーマイクロホン (SMC-34) について	39
レピーター (UBZ-RG27) について	40
参考	41
UBZシリーズ互換表	41
定格	42
アフターサービス	43
保証について	43

使いこなし編

レピーター運用モードで使用する	22	UBZシリーズ互換表	41
運用モードを設定する	22	定格	42
通話を聞かれないようにする	23	アフターサービス	43
スクランブルモードを設定する	23	保証について	43
スクランブルモードを解除する	23		

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用前によくお読みください。
お読みになった後は必要なときにご覧になれるように大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。具体的な指示内容が描かれています。

※お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合、またはこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全上のご注意



警告

■使用環境・条件

● 電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤作動の原因になります。	
● 航空機内、空港敷地内、新幹線車両、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください（電源も入れないでください）。運行の安全や無線局の運用や放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤作動する原因となります。	
● この製品を使用できるのは、日本国内のみです。外国では使用できません。	
● 目の近くで送信したり、人にアンテナを近づけて送信したりしないでください。身体に障害を起こす恐れがあります。	

■音声自動通報端末本体の取扱について

● 布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。	
● 水をかけたり、水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。	
● 水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。	
● この音声自動通報端末は調整済です。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。	

安全上のご注意



警告

■ 異常時の処置について

以下の場合、すぐにACアダプターをACコンセントから抜いて本体の電源をOFFにしてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店にご連絡ください。お客様による修理は、危険ですから、絶対におやめください。



- 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- ACアダプターのコードが痛んだとき（芯線の露出や断線など）

- 雷が鳴り出したら、安全のため早めにACアダプターをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

■ 保守・点検

- 本体の操作パネルは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



- 本体のケース蓋を開けて放置しないでください。故障の原因となります。



安全上のご注意



■使用環境・条件

● テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。	
● 直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。	
● 湿気の多い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。	
● ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。	
● 布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。	
● 化学溶剤（強酸性溶剤・強アルカリ性溶剤）のかからないところで使用してください。火災・感電・故障の原因になります。	

■音声自動通報端末本体の取扱について

● アンテナを誤って目にささないようにしてください。	
● 旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプターをACコンセントから抜いて、本体の電源をOFFにしてください。	

安全上のご注意



■ AC アダプターの取扱について

● ACアダプターを熱機具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。	
● ACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ずACアダプターを持って抜いてください。	

■ 保守・点検

● お手入れの際は、安全のため必ずACアダプターをACコンセントから抜いて、本体の電源をOFFにしてください。	
● 水滴が付いたら、乾いた布でふきとってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。アセトン、シンナー、ベンジンは使用しないでください。劣化の原因となります。	

ご使用にあたっての注意

- 本機は特定小電力トランシーバーに録音メッセージを通報できる、20チャンネル対応の特定小電力音声自動通報端末です。本体には録音機能を搭載し、1台の端末にメッセージを5つまで録音できます。
- 本機は指定された入力端子に信号が入ると自動的に通報する端末です。通報されたメッセージを受信するには特定小電力トランシーバーが必要です。お客様が特定小電力トランシーバーをお持ちでない場合は、事前に特定小電力トランシーバーをお買い求めください。
- 本機にメッセージを録音するには、オプション（別売品）の録音マイクが必要です。必ず指定の録音マイクを使用してください。指定以外の製品を使用した場合、製品の保証はできません。
- 本機は2つの運用モードを搭載し、ノーマルモードでは従来の9チャンネルと11チャンネルのトランシーバーのどちらにでも通報できます。また、レピーター運用モードでは従来の9チャンネルと18チャンネルのどちらにでも通報できます。
 - ・ ノーマルモード（シンプレックス）
 - 1～11チャンネル→従来の11チャンネルのトランシーバーとの交信にも使えます。
 - h1～h9チャンネル→従来の9チャンネルのトランシーバーとの交信にも使えます。
 - 従来の機種との組み合わせについては、「UBZ シリーズ互換表」（⇒P41）をご覧ください。
 - ・ レピーター運用モード（セミデュプレックス）
 - 1～18チャンネル→従来の18チャンネルのレピーターとのアクセスにも使えます。
 - h1～h9チャンネル→従来の9チャンネルのレピーターとのアクセスにも使えます。
 - 従来の機種との組み合わせについては、「UBZ シリーズ互換表」（⇒P41）をご覧ください。
- レピーター運用モードで使用するには、オプション（別売品）のレピーターが必要です。
- 設置、運用するにあたり、必ず事前に通報テストを行ってください。

通報のできる距離は地形や環境によって大きく異なりますが、目安は次のとおりです。建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通報のできる距離が短くなります。

 - ・ 建物と敷地内の通報…………… 100m～200m
 - ・ 建物内同士の通報…………… 100m～300m
 - ・ 見通しの良いところ…………… 1km～2km
- 本機は室内専用です。水などで濡れやすい場所には設置しないでください。

ご使用にあたっての注意

- 激しい振動、雨、粉塵がある環境では使用しないでください。また、化学溶剤（強酸性溶剤・強アルカリ性溶剤）のかかるところでは使用しないでください。
- 水滴が付いたら、乾いた布でふきとってください。汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤をご使用ください。アセトン、シンナー、ベンジンは使用しないでください。劣化の原因となります。
- 本機の外部入力端子は、COMポートとの短絡動作でON/OFFするため、外部からの電圧は絶対にかけないでください。
- ACアダプターは、付属品のもの以外は使用しないでください。
- アンテナはまっすぐ立てた状態で使用してください。
- クリップやホチキスの針などの金属片が装置の中に入らないようにしてください。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。また、ほこりが発生するところや極端な高温・低温・高湿度の場所には設置しないでください。

温度	動作時	-10 ～ 50℃
	保存時	-30 ～ 60℃
湿度	動作時	30 ～ 90%（結露なきこと）
	保存時	30 ～ 90%（結露なきこと）

■ 電波妨害にご注意ください

テレビ、ラジオ、パソコンなどの電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離してお使いください。

■ 電波法に関するご注意

- 本機の側面の技術基準適合証明ラベルをはがさないでください。使用できなくなります。
- 本機を分解したり、改造して使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いて、これを漏らしたり、窃用することは電波法により禁止されています。
- 無線機の使用が禁止されている所があります。航空機内、空港敷地内、新幹線車両内などでは使用しないでください。

梱包品を確認する

■ 梱包品がすべて揃っていることを確認してください。

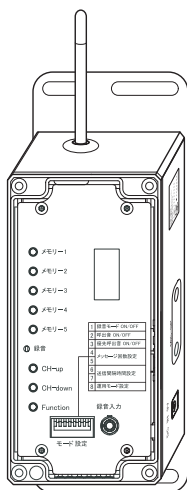
準備編

基本編

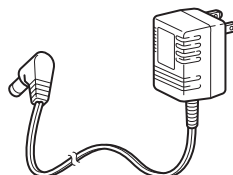
使いこなし編

保守・参考

① 本体



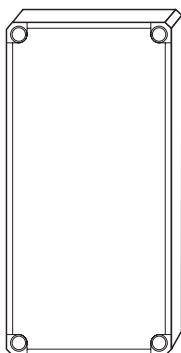
③ ACアダプター



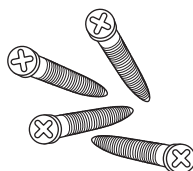
④ 取扱説明書（本書）＋保証書



② ケース蓋

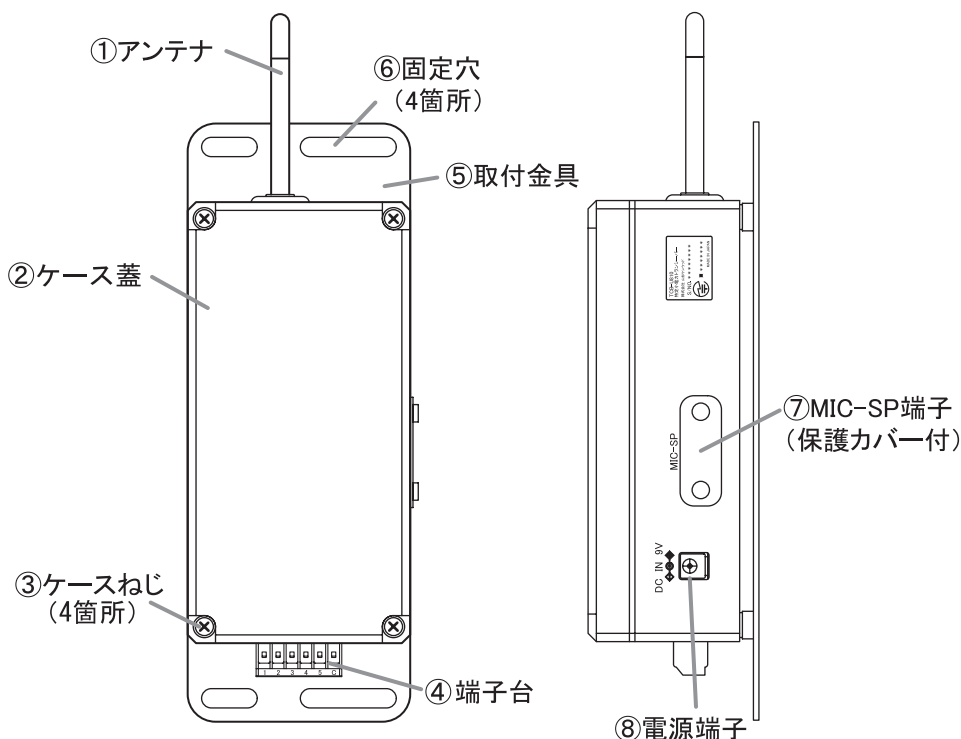


⑤ ケースねじ



各部の名称と機能

■本体



① アンテナ

アンテナはなるべく金属性の物から離れるように位置を決めてお使いください。

② ケース蓋

内部保護、および外装用のケースです。チャンネル設定、通報設定を行うときに外して設定します。

③ ケースねじ (4箇所)

ケース蓋を固定しています。

④ 端子台

外部機器との接続をするための入力端子です。入力端子は5ポートあります。

⑤ 取付金具

本体を固定するための金具です。

⑥ 固定穴 (4箇所)

本体を設備などに固定するときに使用します。

⑦ MIC-SP 端子 (保護カバー付)

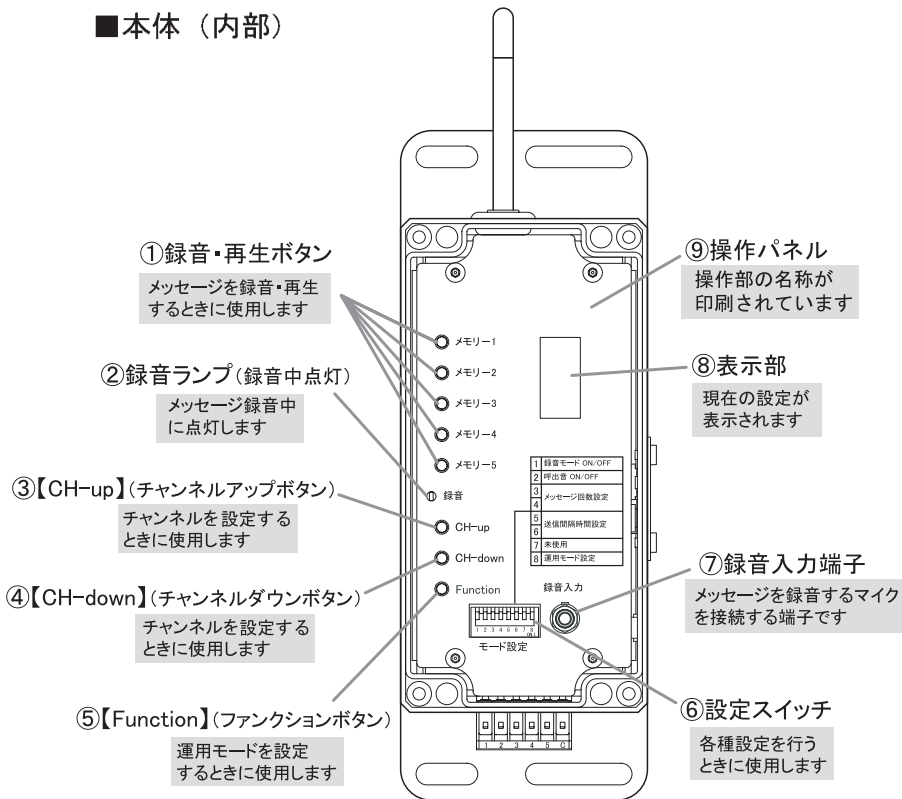
オプションのスピーカーマイクロホンを接続する端子です。

⑧ 電源端子

ACアダプターを接続する端子です。

各部の名称と機能

■ 本体（内部）



● 設定スイッチの工場出荷状態

設定スイッチ	設定項目	工場出荷状態	参照ページ
(1)	録音モードのON/OFF	OFF	P16 ~
(2)	呼び出し音のON/OFF	OFF	P24 ~
(3)	メッセージ回数の設定	OFF	P25 ~
(4)			
(5)	送信間隔時間の設定	OFF	P26 ~
(6)			
(7)	未使用	OFF	—
(8)	運用モードの設定	OFF	P22 ~

【メッセージ回数の設定詳細】

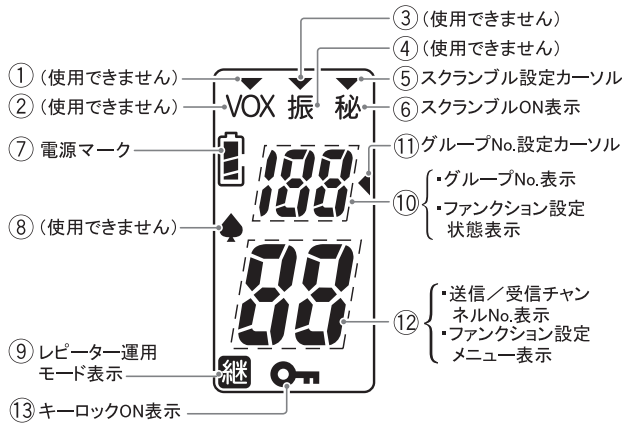
設定スイッチ (3)	設定スイッチ (4)	メッセージ 回数
OFF	OFF	1回
OFF	ON	2回
ON	OFF	3回
ON	ON	4回

【送信間隔時間の設定詳細】

設定スイッチ (5)	設定スイッチ (6)	送信間隔
OFF	OFF	再送信なし
OFF	ON	30秒
ON	OFF	60秒
ON	ON	90秒

各部の名称と機能

■本体（表示部）



表示	No.	意 味
▼ VOX	①	(使用できません)
	②	(使用できません)
▼ 振	③	(使用できません)
	④	(使用できません)
▼ 秘	⑤	スクラブルモードのON/OFFを設定するときに点滅
	⑥	スクラブルがONに設定されているときに点灯
	⑦	電源が入ると点灯
	⑧	(使用できません)
	⑨	レピーター運用モードに設定されているときに点灯
188	⑩	グループNo.表示 ファンクション設定状態表示
	⑪	グループNo.を設定するときに点滅
88	⑫	送信／受信チャンネルNo.表示 ファンクション設定メニュー表示
	⑬	キーロックがONに設定されているときに点灯

準
備
編

基
本
編

使
い
こ
な
し
編

保
守
・
参
考

準備する

準備編

基本編

使いこなし編

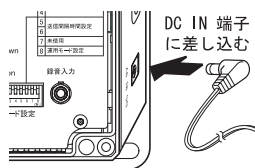
保守・参考

■電源を入れる

本機には電源スイッチがありません。ACアダプターを本体に接続することで、本体の電源が入ります。

1. ACアダプターのプラグをDC IN端子に差し込む。
2. ACアダプターを電源コンセントに差し込む。

電源が入り、表示部にチャンネル番号が表示されます。



■チャンネルを設定する

使用するチャンネルを設定します。

1. 【CH-up】または【CH-down】ボタンを押す。
2. お好みのチャンネルに設定します。

従来の11チャンネル機へ通報するときは、1～11に合わせます。

従来の9チャンネル機へ通報するときは、h1～h9に合わせます。



例:3チャンネルに合わせた場合

※ 工場出荷時（お買い上げ時）は1チャンネルに設定されています。

注意

- チャンネル番号を設定するときは、必ずお使いの特定小電力トランシーバーと同じチャンネル、グループ番号に設定してください。チャンネル、グループ番号が異なると通報されません。（グループ番号の設定⇒P15）
- 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、お使いの特定小電力トランシーバーと共に、他のチャンネル番号を設定してください。

参考

- チャンネル選択時に【CH-up】または【CH-down】ボタンを1秒以上押し続けると早送りされます。
- 特定小電力トランシーバーのチャンネル設定については、お客様がお使いの特定小電力トランシーバーの取扱説明書を参照してください。

■グループ番号を設定する

グループ番号は、表示を切り替えることにより設定されます。設定したグループ番号の信号だけを通報するようになり、他のグループからの混信を避けることができます。

注意

- 必ずお使いの特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号と一致するように設定して使用してください。チャンネル、グループ番号が異なると通報されません。(チャンネル設定⇒P14)

設定するには

1. 【Function】 ボタンを 1 秒以上押す。

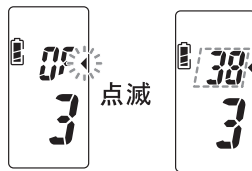
グループ設定カーソルが点滅し、「OF (OFF)」が表示されます。レピーター運用モードでは、現在設定されている番号が表示されます。

2. 【CH-up】 または 【CH-down】 ボタンを押す。

「1 ~ 38」または「101 ~ 183」を選んでください。

3. 【Function】 ボタンを 4 回押す。

グループ番号が設定されます。



■グループを解除する

解除するには

1. 【Function】 ボタンを 1 秒以上押す。

2. 【CH-up】 または 【CH-down】 ボタンを押す。

「OF (OFF)」を表示させます。

3. 【Function】 ボタンを 4 回押す。

グループ番号の設定が解除されます。

※ 工場出荷時（お買い上げ時）はグループOFFに設定されています。



注意

- レピーター運用モードではグループ「101 ~ 183」は使用できません。
※ TCP-U80のみ使用可能です。
- レピーター運用モードで使用中にグループモードを解除するとレピーターは動作しなくなります。
- レピーター運用モードにおいて、グループモードを解除する場合、レピーターのグループ番号もOFFに設定してください。
- VOX 振 マークが表示している場合はリセット動作を行ってください。(⇒P34)
そのままの状態で使用すると、誤作動の原因となります。

参考

- 10 秒以上操作を行わない場合、手順 2 で選択した状態が自動的に設定されます。
- 一度設定したグループ番号は、全チャンネル共通で使えます。
- 【CH-up】 または 【CH-down】 ボタンを 1 秒以上押し続けると早送りされます。

保守・参考

再生する（ノーマルモード）

■録音したメッセージを確認する

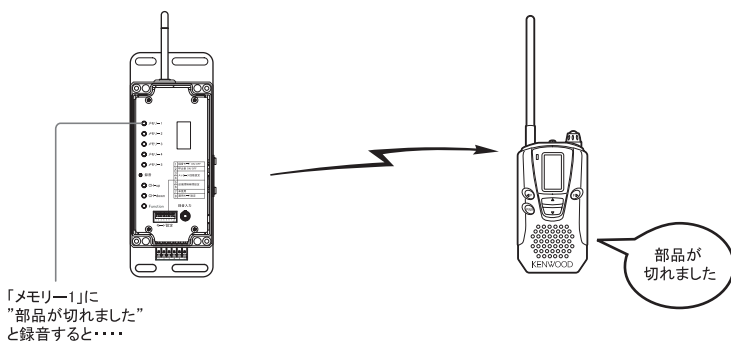
録音したメッセージを確認します。

1. 特定小電カトランシーバーの電源を入れる。
2. チャンネルを合わせる。

再生する特定小電カトランシーバーのチャンネル、グループ番号と、本機のチャンネル、グループ番号を同じに設定します。（本機のチャンネル、グループ設定⇒P14、15 参照）

3. 確認したいメモリー番号のボタンを押す。

録音したメッセージが再生されます。



注意

- 必ず本機とお使いの特定小電カトランシーバーのチャンネル、グループ番号を同じになる様に設定してください。チャンネル、グループ番号が異なると再生されません。
- 特定小電カトランシーバーの操作方法については、お使いの特定小電カトランシーバーの取扱説明書を参照してください。
- 再生するときは、必ず録音モードスイッチ（1）を OFF にしてください。録音モードスイッチを ON にしたままメモリーボタンを押し続けると、録音 LED が点灯し、録音が開始され、前のメッセージが消去されてしまいます。

設置する

■壁や設備等に取り付ける

具体的な設置方法は、設置場所により異なりますが、ここでは基本的な設置の仕方を説明します。

注意

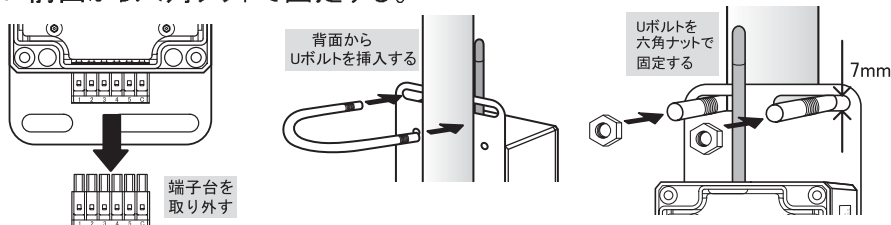
- 設置する前には必ず事前に通報（通信）テストを行ってください。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両、中継局周辺、病院内、電子機器、医療機器の近くには絶対に設置しないでください。（電源も入れないでください。）運行の安全や無線局の運用や放送の受信に支障をきたしたり、電波障害により機器の故障・誤作動する原因になります。
- 屋外、水などで濡れやすい場所、異常に高温になる場所、化学溶剤がかかる可能性がある場所、激しい振動、雨、粉塵などがある場所には設置しないでください。
- 本機を設置するための備品等は製品に付属していません。設置する際に必要な部品は、設置方法に応じて、お客様各自でお買い求めください。
- 取り付ける際は、十分な強度と安定性を確認の上、設置してください。お客様の取り付け不備による落下、また、取り付けによる設備等の破損については保証いたしません。

【ポールなどに取り付ける場合】

1. 本体の端子台を取り外す。
2. Uボルトで固定する。

取り付ける位置に本機を合わせ、背面から取付金具の固定穴にUボルトを挿入する。

3. 前面から六角ナットで固定する。



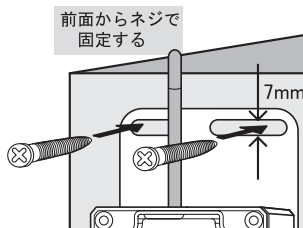
参考

- Uボルト、六角ナットは、M6 のものを使用してください。

【設備等に取り付ける場合】

1. 本体の端子台を取り外す。
2. 取り付ける設備にネジで固定する。

直接本体の取付金具を密着させ、前面からネジで固定する。



設置する

■ 外部機器に接続する

設置時に本体から取り外した端子台に、外部機器の電線を接続します。

1. リリースボタンを押す。

端子台のリリースボタンを、マイナスドライバーで強く押します。

2. 使用するポートに電線を挿し込む。

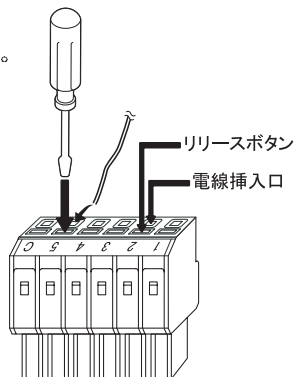
リリースボタンを押したまま、電線挿入口に電線を挿し込みます。

3. リリースボタンを放す。

挿入された電線が固定されます。

4. 端子台を本体に挿し込む。

端子台を、設置された本体に挿し込みます。



注意

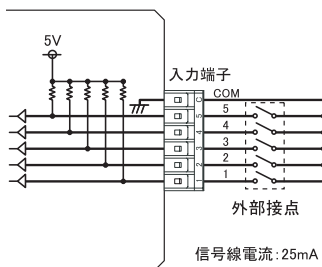
- 本機の外部入力端子は、COMポートとの短絡動作でON/OFFするため、外部からの電圧は絶対にかけないでください。
- リリースボタンをドライバー等で押すときは、端子台をしっかり固定して行ってください。
- 端子台を本体に差し込むときは、必ず本体と外部機器の電源を切ってから行ってください。
- 接続した電線を無理に引っ張らないでください。

参考

- 端子台使用可能電線：単線 $\phi 0.4 \sim \phi 1.0\text{mm}$ (AWG26 ~ 18)
撚線 $0.3 \sim 0.75\text{mm}^2$ (AWG22 ~ 20) 素線径 $\phi 0.18$ 以上
- 通報の優先順位はポート番号の小さい順に通報します。優先度の高いメッセージを通報する場合は、ポート番号の小さいポートへ接続してください。

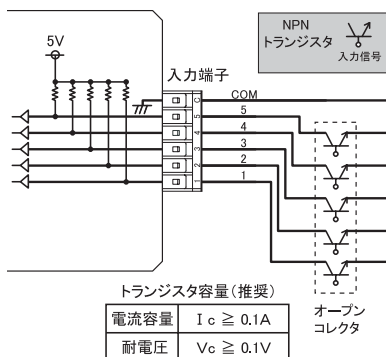
● 外部機器との配線図

【外部接点で駆動する場合】



※ご使用になる外部接点の容量は、信号線電流を考慮して、余裕を持って設定してください。

【トランジスタで駆動する場合】



自動通報のしくみ

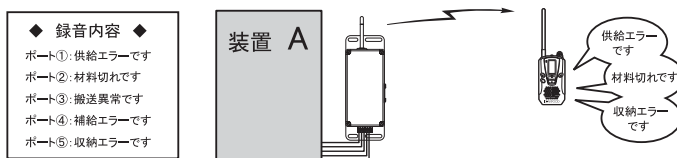
■ 基本的な通報のしくみ

本機は 1 ～ 5 ポートと COM ポートが短絡動作することによって通報ができます。この短絡動作の入力形式によって、さまざまな通報ができます。

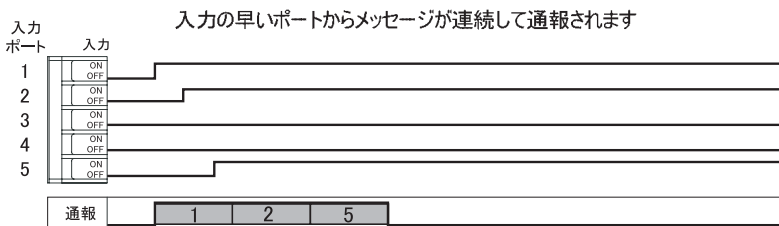
注意

- この形式は工場出荷時の状態です。(⇒ P12 参照)
- 通報中に入力が切れたポートは通報されません。
- 本機は 0.05 秒以上の入力があつた場合のみ通報されます。

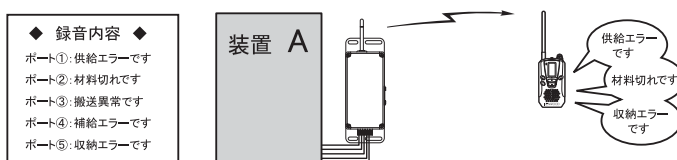
● 入力が保持している場合



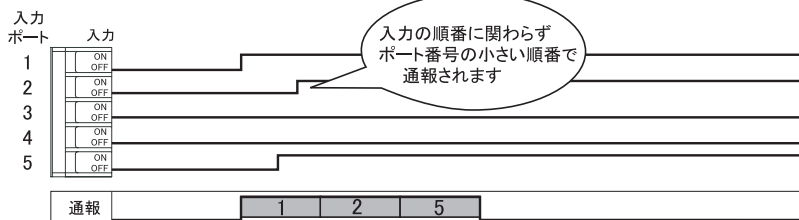
【タイミングチャート】



● 入力が保持している場合

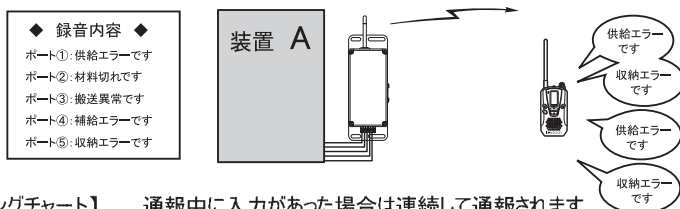


【タイミングチャート】 通報中に複数の信号が入力されている場合、入力開始の順に関わらずポート番号の小さいほうから優先して通報されます

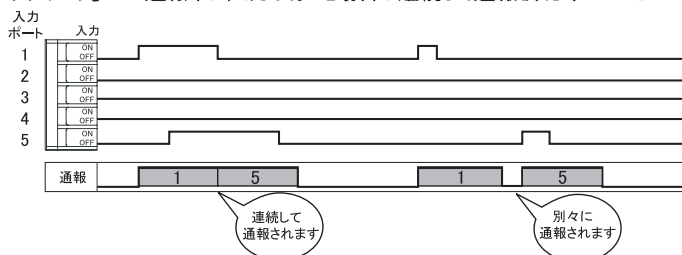


自動通報のしくみ

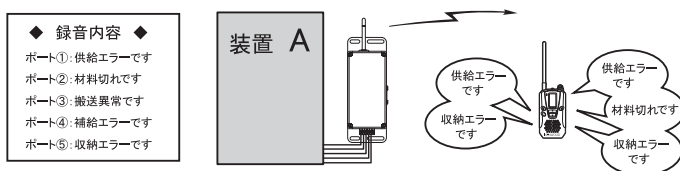
● 入力時間が限られている場合



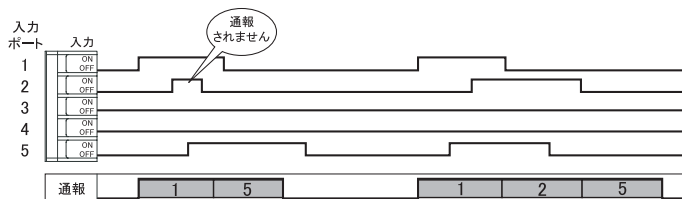
【タイミングチャート】 通報中に入力があった場合は連続して通報されます



● 通報中に入力が切れた場合



【タイミングチャート】 通報中に入力が切れたポートは通報されません



***** 複数台で使用する場合の注意 *****

複数台で使用する場合は混信が起きる可能性があります。混信が起きる原因としては、通報回数（頻度）が大きく影響します。混信が起きた場合は、以下の対応を行うと軽減されます。

- ・ 1つのチャンネルの使用台数を少なくする（例：5台使用の場合、3台で使用する）
- ・ メッセージの長さを短くする
- ・ メッセージ回数設定をしている場合は、回数設定を少なくする
- ・ 送信間隔時間設定をしている場合は、設定時間を長くする
- ・ 入力ポート数を減らす

レピーター運用モードで使用する

■運用モードを設定する

レピーターを介して通報するときに設定します。

設定するには

1. 一度電源を切る。

本機からACアダプターを抜き、電源を切ります。

2. 設定スイッチ（8）をONにする。

3. 電源を入れる。

電源が入ると、表示部に設定メニューが表示されます。

4. 設定スイッチ（8）をOFFにする。

5. 【Function】ボタンを4回押す。

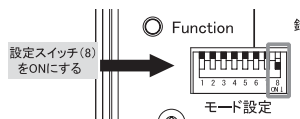
運用モード設定画面【Ot】になります。

6. 【CH-up】または【CH-down】ボタンを押す。

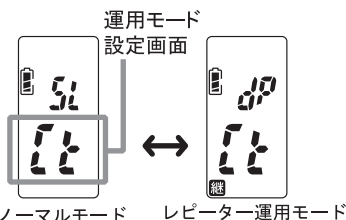
レピーター運用モードになると **継** が表示されます。（右図）

7. 電源を切る。

設定を終了します。



設定モード画面



※ 工場出荷時（お買い上げ時）はノーマルモードに設定されています。

注意

- 【Ot】以外の画面では設定を変えないでください。【Ot】以外の設定を変えると、誤動作する恐れがあります。誤って変えてしまった場合は、リセット動作を行ってください。（⇒P34）
- 電源が入った状態で設定スイッチ（8）をONにしても、設定画面には切り替わりません。
- レピーター運用モードに設定するときは、オプションのレピーターを併用しないと通報できません。
- レピーター運用モードで通報するには、本機のチャンネル、グループ番号（⇒P14、15）と特定小電力トランシーバーのチャンネルとグループ番号を、レピーターのチャンネルとグループ番号を同じに設定しておく必要があります。それぞれのチャンネル、グループ番号が異なると通報されません。
- 特定小電力トランシーバーとレピーターの運用モード設定については、お客様がお使いの特定小電力トランシーバーとレピーターの取扱説明書を参照してください。
- レピーター運用モードではグループ「101～183」は使用できません。
- 運用モードの違う相手には通報できません。
- 設定後は必ず設定スイッチ（8）をOFFしてください。

通報を聞かれないようにする(スクランブルモード)

■スクランブルモードを設定する

グループモード時にスクランブルモードを設定すると、スクランブルモードを設定していない場合は通報を聞き取れなくなります。あらかじめグループ番号を設定してください。(⇒P15 参照)

設定するには

1. 【Function】 ボタンを 1 秒以上押す。
2. 【Function】 ボタンを 1 回押す。
スクランブル設定カーソルが点滅します。
3. 【CH-up】 または 【CH-down】 ボタンを押す。
秘 を点灯させます。
4. 【Function】 ボタンを 3 回押す。
スクランブルモードが設定されます。



■スクランブルモードを解除する

解除するには

1. 【Function】 ボタンを 1 秒以上押す。
2. 【Function】 ボタンを 1 回押す。
スクランブル設定カーソルが点滅します。
3. 【CH-up】 または 【CH-down】 ボタンを押す。
秘 を消灯させます。
4. 【Function】 ボタンを 3 回押す。
スクランブルモードが解除されます。



※ 工場出荷時（お買い上げ時）にスクランブルモードは OFF に設定されています。

注意

- グループ番号とスクランブルモードが一致した場合、第三者でも通報を傍受できます。高度な機密を要する通報では、本機のご使用をお薦めいたしかねます。
- チャンネル番号、グループ番号、スクランブルモードの設定は、通報する相手の方と合わせてください。設定を合わせないと通報できません。
- VOX 振 マークが表示している場合はリセット動作を行ってください。(⇒ P34)
そのままの状態で使用すると、誤作動の原因となります。

参考

- 10 秒以上操作を行わない場合、手順 3 で選択した状態が自動的に設定されます。
- グループモードを OFF にすると、スクランブルモードも OFF になります。

呼び出し音を設定する（コールトーン）

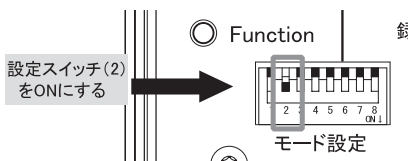
■呼び出し音を設定する

通報するときに、メッセージの前に呼び出し音を鳴らします。

設定するには

1. 設定スイッチの（2）を ON にする。

メッセージを通報する前に、呼び出し音が鳴ります。



■呼び出し音を解除する

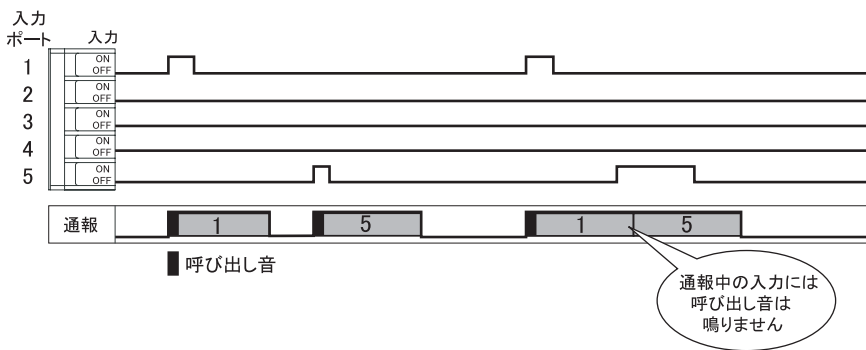
解除するには

1. 設定スイッチの（2）を OFF にする。

呼び出し音が解除されます。

※ 工場出荷時（お買い上げ時）は呼び出し音は OFF に設定されています。

メッセージの始めに呼び出し音を付加して通報します



注意

- 呼び出し音は、連続した通報の前に 1 回鳴ります。
- メッセージ回数を設定している場合は、通報の頭に呼び出し音が鳴ります。
(メッセージ回数設定⇒ P25 参照)

メッセージ回数を変更する(メッセージ回数設定)

■メッセージ回数を設定する

一度の通報でメッセージを繰り返したいときに設定します。1～4回のメッセージ回数を設定できます。

設定するには

【設定値一覧】

1. 設定スイッチの(3)又は(4)をONにする。

設定した回数、録音したメッセージが繰り返されます。

設定回数の変更は右図を参照してください。

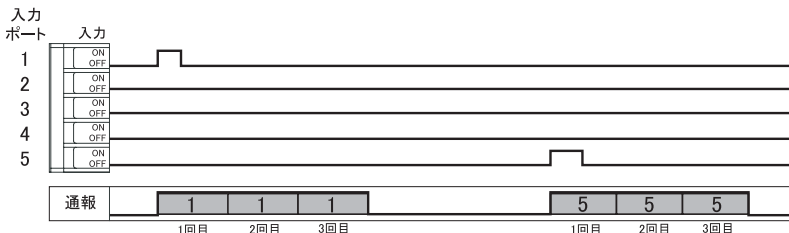
※ 工場出荷時（お買い上げ時）はメッセージ回数設定はOFF（なし）に設定されています。

設定スイッチ (3)	設定スイッチ (4)	メッセージ回数
OFF	OFF	1回
OFF	ON	2回
ON	OFF	3回
ON	ON	4回

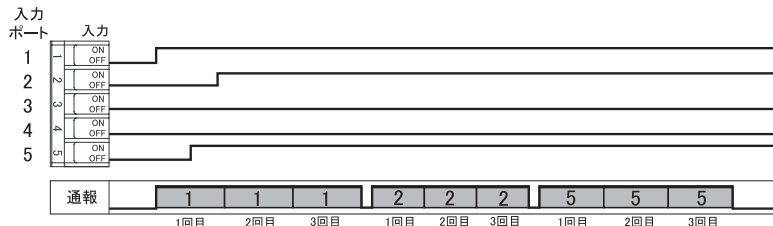
【メッセージ回数設定のしくみ】(3回に設定した場合)

● 入力時間が限られている場合

1回の通報で指定回数分のメッセージを繰り返します



● 入力が保持している場合



■メッセージ回数を解除する

解除するには

1. 設定スイッチの(3)と(4)をOFFにする。

メッセージ回数が解除されます。(1回になります)

注意

- メッセージ回数を設定すると、通報時間が長くなるため、他のポートからの入力を妨げる可能性があります。
- メッセージ回数を設定したときに送信間隔時間が設定されると、1つのポートしか入力を受け付けなくなります。

同じ通報を繰り返す(送信間隔時間設定)

準備編

基本編

使いこなし編

保守・参考

■送信間隔時間を設定する

設定した間隔で送信が繰り返されます。

設定するには

1. 設定 SW の (5) 又は (6) を ON にする。

設定した間隔で、同じメッセージを再送信通報します。

設定間隔時間の変更は右図を参照してください。

【設定値一覧】

設定スイッチ (5)	設定スイッチ (6)	送信間隔
OFF	OFF	再送信なし
OFF	ON	30秒
ON	OFF	60秒
ON	ON	90秒

※ 工場出荷時（お買い上げ時）に

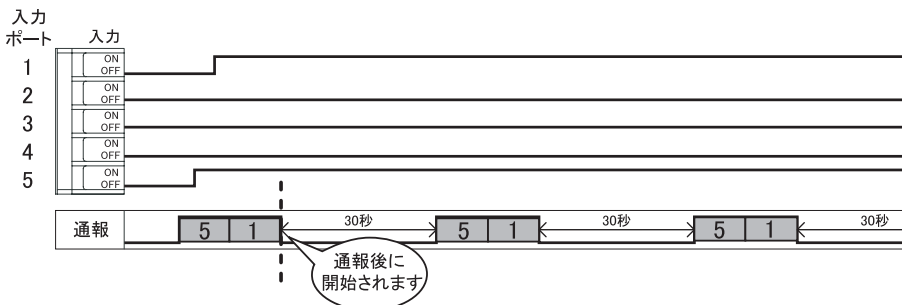
送信間隔時間設定は OFF に設定されています。

参考

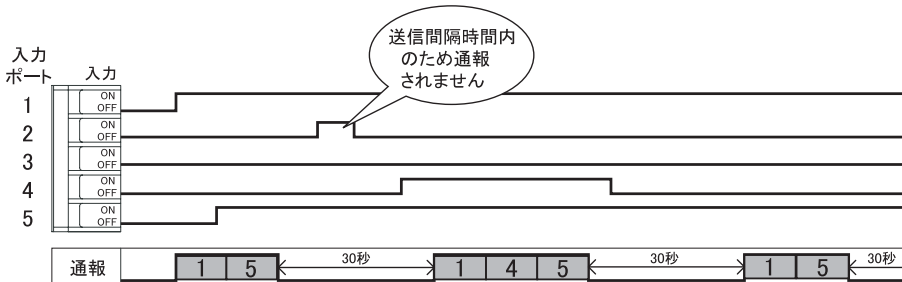
- 送信間隔時間は、メッセージ通報後から開始されます。

【送信間隔時間設定のしくみ】（30 秒に設定した場合）

指定した時間の間隔を空けて通報を繰り返します



通報中に入力があった信号のみ送信されます



同じ通報を繰り返す(送信間隔時間設定)

【複数の端末で使用する場合】(端末 A、B2 台で運用し、ともに同じチャンネルで 60 秒に設定した場合)

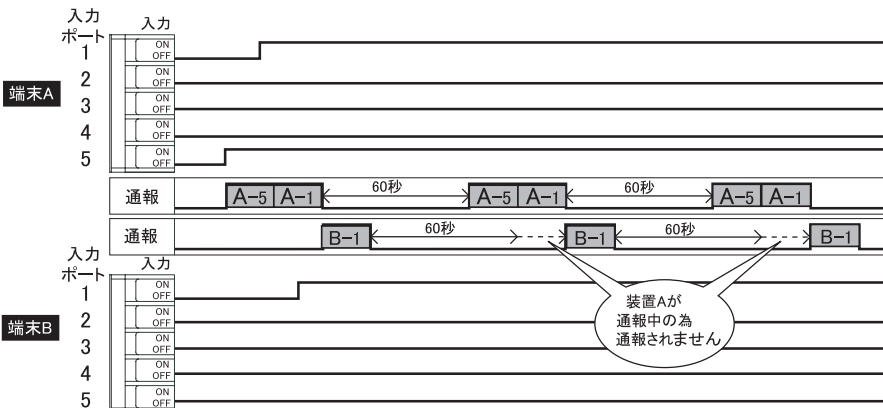
- 端末 A の待機時間 (送信間隔設定時間) に入力があった場合

設定した時間の間隔内で別の端末に入力があった場合、その間隔内に割り込んで通報されます



- 端末 A が再生中に入力があった場合

別の端末が通報している間は通報することができません



同じ通報を繰り返す(送信間隔時間設定)

■送信間隔時間を解除する

解除するには

1. 設定 SW の (5) と (6) を OFF にする。

送信間隔時間が解除されます。

注意

- 送信間隔時間を設定したときにメッセージ回数設定を行うと、1つのポートしか入力を受け付けなくなります。
- 送信待機中の一時的な入力は通報されません。

誤ってキーが押されるのを防ぐ(キーロック)

■キーロックを設定する

通話中はキーロックしておくと、間違えてキーを押しても動作しないように設定できます。

設定するには

1. 一度電源を切る。
2. 【Function】 ボタンを押しながら電源を入れる。
● 表示が点灯します。キーロックが設定され、
【CH-up】【CH-down】【Function】が動作しなくなります。



点灯

■キーロックを解除する

解除するには

1. 一度電源を切る。
2. 【Function】 ボタンを押しながら電源を入れる。
● 表示が消灯します。キーロックが解除されます。



消灯

参考

- キーロック中でも以下の機能は動作します。
 - ・ 電源 ON/OFF
 - ・ メッセージ送信
 - ・ キーロック解除
 - ・ 運用モード設定
 - ・ オールリセット

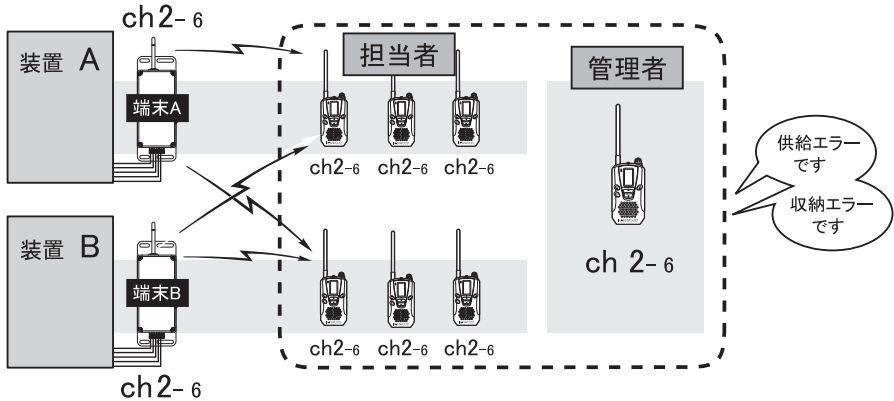
用途に応じた使用例

■ 設備（自動機など）における使用例

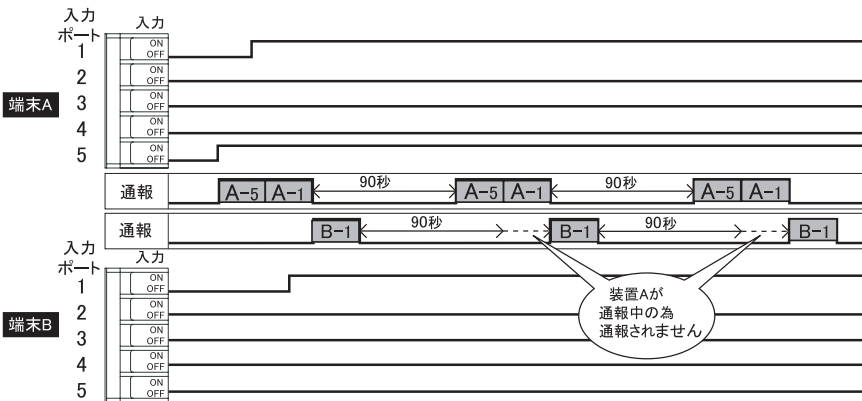
設備から出力される信号が本機のポートに入力されると、指定したチャンネルに通報することができます。

● 同一チャンネルに設定したときの例

すべての端末、特定小電力トランシーバーを同一チャンネルに設定すると、装置Aと装置Bのそれぞれの担当者と管理者が両方の通報を聞くことができます。



【タイミングチャート】（送信間隔時間設定を 90 秒に設定した場合）



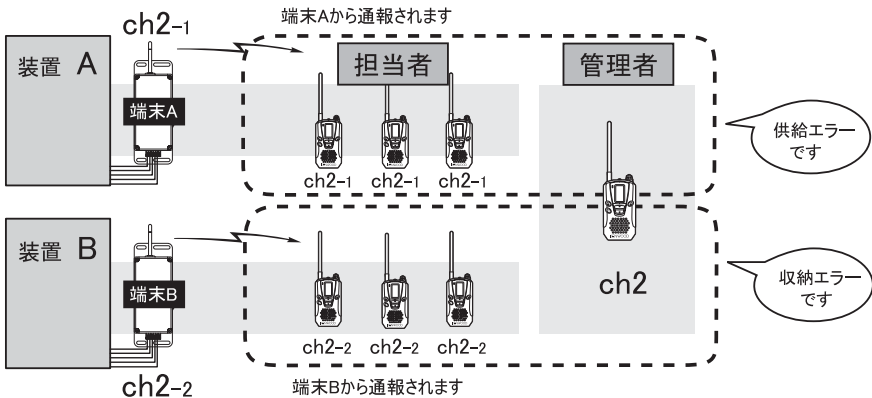
用途に応じた使用例

● 別々のグループに設定したときの例

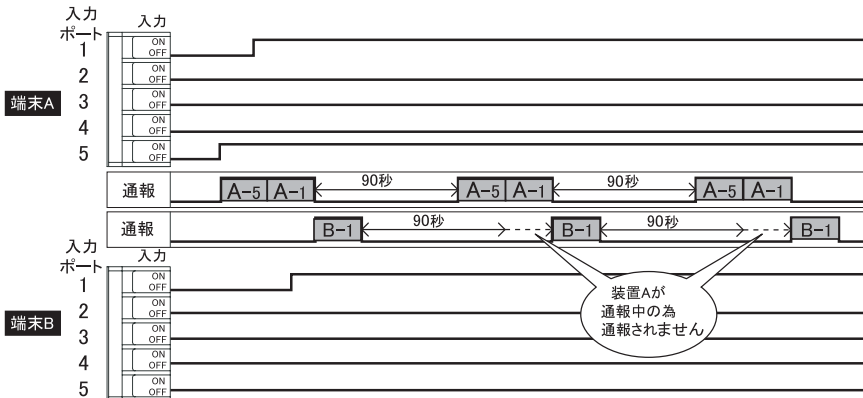
設備が複数ある場合、装置ごとにグループを変えておくと、次のような使い方ができます。

装置 A と装置 B の端末を同一チャンネル、別グループに設定すると

担当者はそれぞれの装置からの通報を聞くことができ、管理者は両方の通報を聞くことができます



【タイミングチャート】（送信間隔時間設定を90秒に設定した場合）



注意

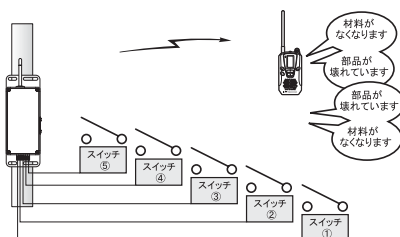
- 同じチャンネルで同時に通報できないため、通報頻度が高い環境では、上記の方法はおすすめできません。その場合、装置ごとに別々のチャンネルに変えることをおすすめします。

用途に応じた使用例

■生産ラインにおいての使用例

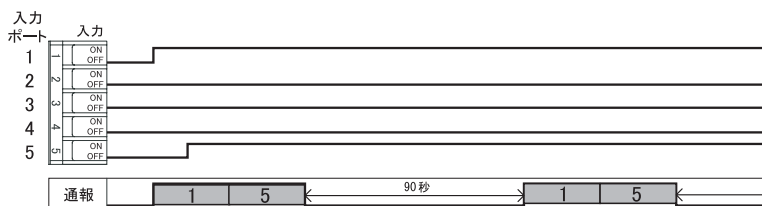
生産ラインに接続されているスイッチで本機のポートに信号を入力すると、指定したチャンネルに通報することができます。

● 保持型スイッチを使用したときの例

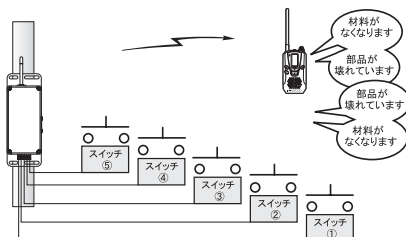


保持型スイッチを使用して送信間隔時間設定を
すると定期的に通報をすることができます

【タイミングチャート】（送信間隔時間設定を 90 秒に設定した場合）

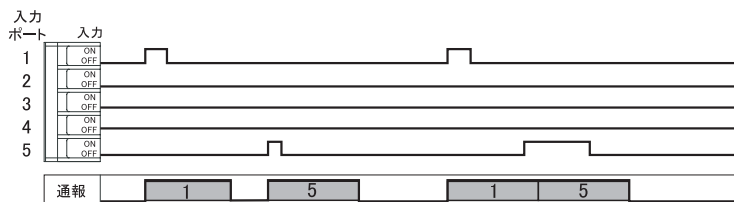


● 押しボタンスイッチなどの非保持型スイッチを使用したときの例



押しボタンスイッチなどを使用すると
定期的に通報はできませんが、
ボタンを押したとき、即時に通報
することができます

【タイミングチャート】（送信間隔時間設定を 90 秒に設定した場合）



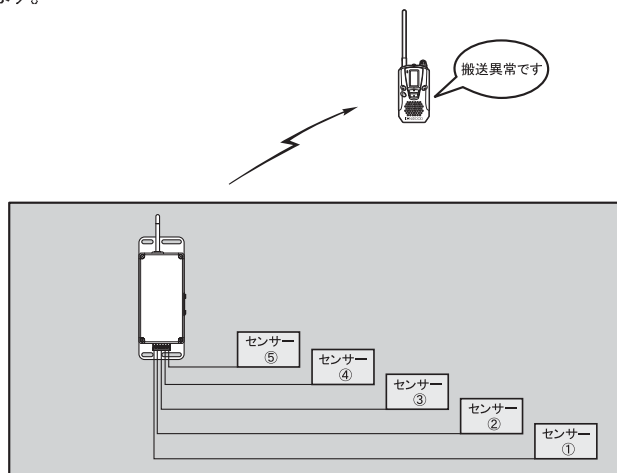
注意

- 本機は0.05秒以上の入力でメッセージが通報されます。

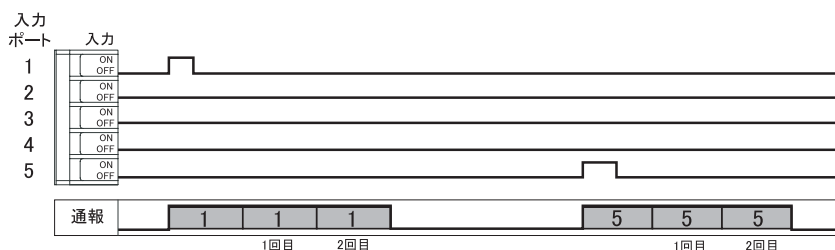
用途に応じた使用例

■ 外部センサーでの使用例

生産設備に接続されているセンサーから、本機のポートに信号が入力されると、指定したチャンネルに通報することができます。



【タイミングチャート】（メッセージ回数設定を2回に設定した場合）



■故障かな？と思ったら

この製品について修理を依頼される前に、次頁の「症状による確認項目」を点検してください。
それでも回復しない場合は、リセットしてみてください。

■オールリセット

設定してある内容はすべて消去され、初期設定（お買い上げ時の状態）に戻ります。

1. いったん電源を切る。
2. 【CH-up】と【CH-down】ボタンを押しながら電源を入れる。
表示が全点灯します。
3. 【CH-up】と【CH-down】ボタンから指を離す。
初期設定の状態に戻ります。



全点灯画面

■VOX 振 解除について

もし、VOX 振 が点灯している場合、以下の方法によって解除することができます。

- VOX の解除方法
 1. 【Function】ボタンを1秒以上押す。
 2. 【Function】ボタンを3回押す。
設定カーソルが点滅します。
 3. 【CH-up】または【CH-down】ボタンを押す。
VOX を消灯させます。
 4. 【Function】ボタンを1回押す。
設定が解除されます。
- 振 の解除方法
 1. 【Function】ボタンを1秒以上押す。
 2. 【Function】ボタンを2回押す。
設定カーソルが点滅します。
 3. 【CH-up】または【CH-down】ボタンを押す。
振 を消灯させます。
 4. 【Function】ボタンを2回押す。
設定が解除されます。

注意

- VOX 振 を表示したまま使用すると、誤作動の原因となります。

■症状による確認項目

修理を依頼される前に、下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください。（オールリセット⇒P34 参照）

●ノーマル運用モード / レピーター運用モード共通

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
電源が入らない	ACアダプタが接続されていない	ACアダプタを接続する	14
録音できない	電源が入っていない	電源を入れる	14
	録音マイクが接続されていない	録音マイクを接続する	16
	録音モードスイッチ (1) がOFFになっている	録音モードスイッチ (1) をONにする	16
	録音LEDが点灯する前に録音している	録音LEDが点灯してから録音する	16
	端子台が接続されており、ポートに入力がある	録音するときは端子台を外してください	16
再生できない	受信側の特定小電力トランシーバーの電源が入っていない	受信側の特定小電力トランシーバーの電源を入れる	—
	本機と特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号が違う	本機と特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号を同じに設定する	14、15
	本機と特定小電力トランシーバーの運用モードが違う	本機と特定小電力トランシーバーの運用モードを同じにする	22
	本機または特定小電力トランシーバーがスクランブルモードになっている	本機と特定小電力トランシーバーの設定を同じにする	23
再生が途切れる	メッセージの長さが10秒以上になっている	メッセージを録音可能な長さで録音する	16
再生が聞こえない	特定小電力トランシーバーの音量が小さい	特定小電力トランシーバーの音量を上げる	—
入力されない	電源が入っていない	電源を入れる	14
	入力端子に外部機器が接続されていない	入力端子に外部機器を接続する	19
勝手に送信する	VOX が表示されている	VOX 表示を解除する	34

■ 症状による確認項目

修理を依頼される前に、下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、リセットしてください。（オールリセット⇒P34 参照）

●ノーマル運用モード / レピーター運用モード共通

症 状	原 因	処 置	参照 ページ
通報できない (送信しない)	本機と特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号が違う	本機と特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号を同じに設定する	14、15
	本機と特定小電力トランシーバーの運用モードが違う	本機と特定小電力トランシーバーの運用モードを同じにする	22
	本機または特定小電力トランシーバーがスクランブルモードになっている	本機と特定小電力トランシーバーの設定を同じにする	23
	他の特定小電力トランシーバーまたは端末が送信している	送信が終わるのを待つ	—
通報が聞こえない	通報相手と本機の距離が離れすぎている	通報のできる距離を目安に通報する	8
	特定小電力トランシーバーの音量が小さい	特定小電力トランシーバーの音量を上げる	—
コールトーンが鳴らない	コールトーン設定SWがOFFになっている	コールトーン設定SWをONにする	24
メッセージが繰り返し返さない	メッセージ回数設定がOFFになっている	メッセージ回数設定をONにする	25
	送信間隔時間設定がONになっている	送信間隔時間設定をOFFにする	28
メッセージが再送信されない、または予定の時間で送信されない	送信間隔時間設定がOFFになっている	送信間隔時間設定をONにする	26
	他の端末が送信している	送信が終わるのを待つ	—
聞きとれない音声が入ってくる	スクランブルモードになっている	スクランブルモードをOFFにする	23
	他の端末と混信している	送信間隔時間を設定する	26
		送信間隔時間設定をしている場合は時間間隔を長くする	26
受信しない	✕ 振 が表示している	✕ 振 表示を解除する	34

■症状による確認項目

●レピーター運用モード使用時

症状	原因	処置	参照 ページ
レピーターにアクセスできない	＜アクセスエラー音が鳴らない＞ ・レピーター運用モードになっていない	レピーター運用モードに設定する	22
	＜アクセスエラー音が鳴る＞ ・本機と特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号がレピーターの番号と 違っている ・レピーターとの距離が離れすぎている	本機と特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号をレピーターの番号と同じに設定する	14、15
		通報のできる距離を目安に通報する	8
通報できない	特定小電力トランシーバーがレピーター運用モードになっていない	特定小電力トランシーバーをレピーター運用モードに設定する	－
	特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号が違う	特定小電力トランシーバーのチャンネル、グループ番号を同じに設定する	－

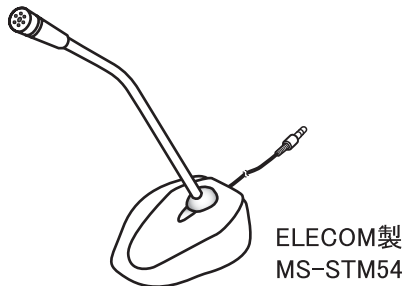
●スピーカーマイクロホン（SMC-34）使用時

症状	原因	処置	参照 ページ
受信しない	ボリュームがMINになっている	ボリュームを大きくする	－

オプション（別売品）について

■録音マイク（MS-STM54）について

本機にメッセージを録音するためのマイクです。メッセージを録音する際は、必ず指定のものを使用してください。（録音マイクの接続、録音の操作方法については、本書のP16を参照してください。）



注意

- 録音マイクは必ず指定のものを使用してください。
- 録音するときは必ず端子台を外してから録音してください。接続したままで行うと、誤作動する可能性があります。
- 録音するときはできるだけ騒音のないところで録音してください。

オプション（別売品）について

■スピーカーマイクロホン（SMC-34）について

本機にオプションのスピーカーマイクロホンを取り付けることにより、本機から直接、特定小電力トランシーバーとの交信が可能になります。

1. MIC-SP 端子の保護カバーを取り外す。

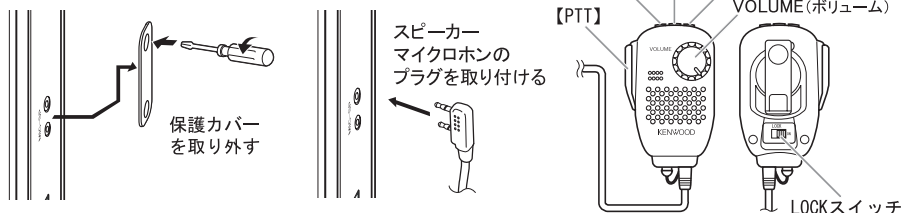
本機の MIC-SP 端子の保護カバーを、ドライバーで取り外します。

2. マイクプラグを取り付ける。

本機の MIC-SP 端子に取り付けます。

3. 【PTT】スイッチを押す。

送信するとき、【PTT】スイッチを押しながら話します。



● 【PTT】（トークスイッチ）

送信するとき、このスイッチを押しながら話します。

● LOCK スwitch（背面）

このスイッチをONにすると、マイクだけの機能になり、【1】～【3】のスイッチは使えなくなります。（お買い上げ時はONになっています。）

● 【1】、【2】、【3】

【1】 モニタ

【2】 機能なし

【3】 機能なし

● VOLUME（ボリューム）ツマミ

音量を調節するときに使用します。

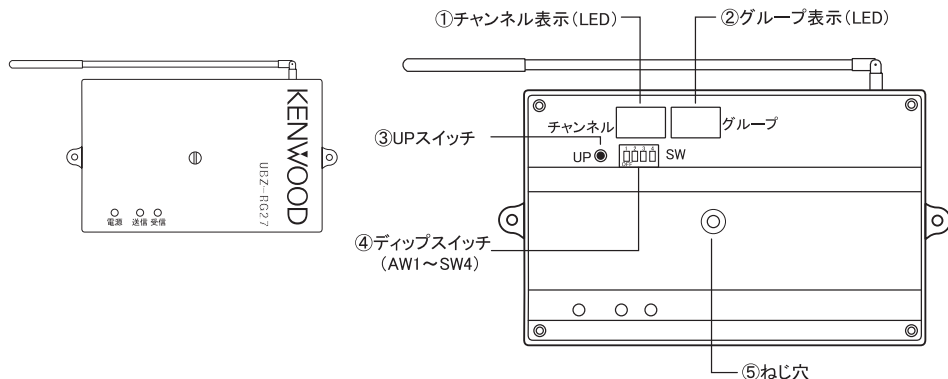
注意

- オプションマイクで送信中にポートに入力があった場合、メッセージ通報が優先されます。

オプション（別売品）について

■レピーター（UBZ-RG27）について

レピーター運用モードのとき動作する中継器（レピーター）です。各種設定はUBZ-RG27に付属の取扱説明書をご覧ください。



① チャンネル表示 (LED)

チャンネル番号を表示します。ディップスイッチを切り替えて、UP スwitchを押すと表示が5秒間点灯し、押すたびにチャンネル番号が切り替わります。表示は5秒間操作しないでいると消灯します。

② グループ表示 (LED)

グループ番号を表示します。ディップスイッチを切り替えて、UP スwitchを押すと表示が5秒間点灯し、押すたびにチャンネル番号が切り替わります。表示は5秒間操作しないでいると消灯します。

③ UP スwitch

次の4つの機能を設定するとき押します。

- ・チャンネル表示とグループ表示のLEDを点灯させるとき。
- ・チャンネル番号を切り替えるとき。
- ・グループ番号を切り替えるとき。
- ・設定内容をリセットして、初期設定値に戻すとき。

④ ディップスイッチ (SW1 ~ SW4)

機能を設定するとき使用します。

- SW1 : チャンネル番号とグループ番号の設定
- SW2, 3 : ハングアップタイムの設定
- SW4 : 使用しません

⑤ ねじ穴

本機にふたを取り付けるとき、ねじ止めするのに使います。

■UBZ シリーズ互換表

本機と従来の機種間の互換性は次のとおりです。

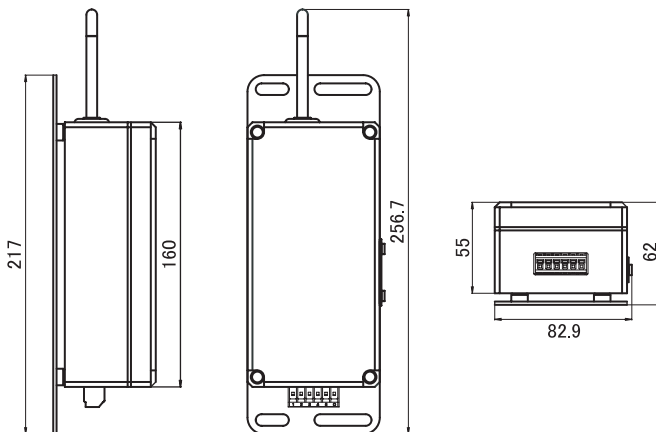
- ◎：グループモード有り、スクランブルモード有りで通話可能
- ：グループモード有り、スクランブルモード解除で通話可能
- △：グループモード無し、スクランブルモード解除で通話可能
- ×：通話不可

	TCB-U810（特定小電力音声自動通報端末）				UBZ-RG27（中継器）	
	ノーマルモード チャンネル表示		レピーター運用モード チャンネル表示		9チャンネル 表示	18チャンネル 表示
	h1～h9	1～11	h1～h9	1～18	h1～h9	1～18
UBZ-7	△	×	×	×	×	×
UBZ-17	○	×	×	×	×	×
UBZ-L3	△	×	×	×	×	×
UBZ-LA5	◎	×	×	×	×	×
UBZ-LA5	◎	×	×	×	×	×
UBZ-LA7	◎	×	×	×	×	×
UBZ-LA7R	◎	×	×	×	×	×
UBZ-LF9	◎	×	×	×	×	×
UBZ-LF11	×	◎	×	×	×	×
UBZ-LG9	◎	×	×	×	×	×
UBZ-LG11	×	◎	×	×	×	×
UBZ-LH9	◎	×	×	×	×	×
UBZ-LH11	×	◎	×	×	×	×
UBZ-LH20	◎	◎	×	×	×	×
UBZ-B5	×	◎	×	×	×	×
UBZ-BA5	×	◎	×	×	×	×
UBZ-B7	×	◎	×	×	×	×
TCP-U70	×	×	×	×	×	×
UBZ-BG9R	◎	×	UBZ-RG9 UBZ-RG27	×	◎	×
UBZ-BG11R	×	◎	×	UBZ-RG18 UBZ-RG27	×	◎
UBZ-BG20R	◎	◎	UBZ-RG9 UBZ-RG27	UBZ-RG18 UBZ-RG27	◎	◎
UBZ-LJ20	◎	◎	×	×	×	×
TCP-U80	◎	◎	◎	◎	◎	◎

特定小電力音声自動通報端末（TCB-U810）

送受信周波数・・・・・・・・・・	直接交信用-ノーマルモード（12.5kHzステップ） 422.050～422.175MHz（1～11ch） 422.200～422.300MHz（h1～h9ch） 中継交信用-レピーター運用モード（12.5kHzステップ） 受信：421.5750～421.7875MHz（1～18ch） 421.8125～421.9125MHz（h1～h9ch） 送信：440.0250～440.2375MHz（1～18ch） 440.2625～440.3625MHz（h1～h9ch）
電波型式・・・・・・・・・・	F3E、F2D
周波数安定度・・・・・・・・・・	±4ppm
消費電流・・・・・・・・・・	送信時・・・・・・・・・・95mA以下 受信定格（50mW）出力時・・・・・・・・135mA以下 受信待受時（平均値）・・・・・・・・80mA以下 セーブ時（平均値）・・・・・・・・35mA以下
使用温度範囲・・・・・・・・・・	-10℃～+50℃
電源電圧（定格電圧）・・・	DC9.0V（マイナス接地）
送信出力・・・・・・・・・・	10mW
低周波出力・・・・・・・・・・	50mW以上（定格電圧、8Ω負荷、10%歪時）
受信感度・・・・・・・・・・	-8dBμ（0.4μV）以下（SINAD12dB時）
寸法（突起物含まず）・・・	幅80×高さ160×奥行55mm
質量（重量）・・・・・・・・・・	約706 g

● 寸法図（mm）



アフターサービス

■保証について

● 保証書

この製品には、取扱説明書（本書）に、保証書を添付しております。保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

● 保障期間

保障期間は、お買い上げの日より1年間です。

【修理を依頼されるときは】

「故障かな？と思ったら」（P34～P37）を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店または山形ケンウッド営業窓口にお問い合わせください。

修理に出された場合、設定されたデータが消去される場合がありますので、別途お客様御自身でお控え下さいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合等によって通話などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、山形ケンウッドは一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

● 保障期間中は

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って、お買い上げの販売店または山形ケンウッドが修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保障期間経過後は・・・

お買い上げの販売店または山形ケンウッドにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

山形ケンウッド

特定小電力音声自動通報端末

保証書

形 名		T C B - U 8 1 0		製 造 番 号	
※ お 客 様	お名前				
	様				
	ご住所 〒				
電話番号		()			
※ お 買 い 上 げ 日		※取扱販売店名 住所 電話番号			
年 月 日					
保証期間(お買い上げ日より)					
本 体: 1 年					

お客様へお願い
お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をわかりやすくご記入いただき、
修理を依頼する場合にサービスの者にご呈示ください。

〈無料修理規定〉

1. 本保証書に提示の保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベル等の
注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合は、お買い上げの
販売店または山形ケンウッドにて無料修理させていただきます。

2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、お買い上げの販売
店または山形ケンウッド営業窓口へご依頼ください。なお、修理に際し
ては必ず本保証書をご呈示ください。

3. ご転居の場合は事前にお買い上げの販売店にご相談ください。

4. 次の場合には保証期間内でも有料になります。

（イ）本保証書のご提示のない場合。

（ロ）本保証書にお買い上げの年月日、お客様名、販売店名の記入の
ない場合、または字句を書き替えられた場合。

（ハ）使用上の誤り、不当な修理、調整、改造による故障及びそれを
原因として生じた故障及び損傷。

（ニ）故障の原因が本製品以外の機器にある場合。

（ホ）お買い上げ後の取付け場所の移動、落下、冠水などに故障及び損
害。

ご販売店様へ
お買い上げ日、貴店名、住所、電話番号を記入のうえ、
保証書をお客様へお渡しください。

（ハ）火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、
昆虫類（ゴキブリ等）の混入による故障。

（ト）取扱説明書に記載されている使用条件以外で使用した場合の故障及
び損傷。

（チ）製造番号の改変及び、取り外した製品。

5. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。

（修理メモ）

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を規制するものではありませんので保証期間経過後の修理などについて、不明の場合はお買い上げの販売店または山形ケンウッド営業窓口にお問い合わせください。

オプション品 UBZ-RG27 製造中止のお知らせ

取扱説明書 40ページに掲載の製品UBZ-RG27 は、
現在製造中止となっております。

オプションで中継器を購入したい場合は、
代替製品 UBZ-RJ27 をお買い求めください。

尚、UBZ-RJ27の設定・操作方法は、
UBZ-RJ27に付属の取扱説明書をご覧ください。